

時空間制御による新規超伝導デバイスの創出

日時：2023年3月15日（水）13:30～17:30

場所：上智大学四谷キャンパス+オンライン

本シンポジウムでは、超伝導体の次元性や超伝導の時間発展現象の制御・観測に由来する巨視的量子現象や量子多体効果を応用したデバイスとその実装、実用について、最先端の研究成果を報告いただきます。超伝導物性の理解及び新規デバイスのヒントが得られる機会となれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。

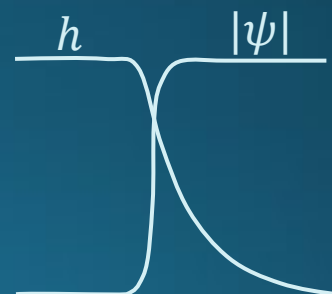
休憩時間には第14回応用物理学会超伝導分科会論文賞、同研究奨励賞の授賞式を予定しています。

招待講演者（順不同）：

- ・菊池貴大（産総研）
「多ピクセル高エネルギー分解能ガンマ線超伝導転移端センサーの開発」
- ・小嶋崇文（国立天文台）
「2030年代のミリ波サブミリ波電波天文学に向けたSISデバイスの研究と高感度受信機の開発」
- ・岡本亮（京都大学）
「超伝導光子検出器を用いた量子もつれ光検出」
- ・大西紘平（九州大学）
「超伝導/常伝導体界面によるスピン流制御」
- ・若村太郎（NTT）
「原子層物質における多彩な超伝導現象」
- ・加藤勝（大阪公立大）
「高温超伝導体固有ジョセフソン接合におけるテラヘルツ位相ダイナミクスの理論」



$$\frac{2eV}{\hbar} = \frac{d\phi}{dt}$$



企画

大分類11
超伝導分科会

世話人

掛谷一弘（京大）、川山 巖（京大）
山梨裕希（横国大）、長尾雅則（山梨大）